



阪神・淡路大震災30年  
1995.1.17

「うすれない記憶はない。

つなぐべき決意がある。」

令和6年度

大規模災害を想定した

# 災害ボランティア連携訓練

参加無料  
(会場定員 80 名)

◆日 時：令和6年12月25日（水）

10時30分から16時30分まで

◆場 所：神戸クリスタルタワー3階「クリスタルホール」

(〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3)

近年の頻発・激甚化する自然災害において、多数の被災者から寄せられるニーズに対応し、適切・効果的な支援を行い、速やかに被災地復興を実現させるには、行政、社協、NPO等の三者がそれぞれの強みを活かしつつ、連携して被災地支援を行うことが重要です。

今回の訓練では、国が推進する「災害ケースマネジメント」について学び、被災者一人ひとりの状況を把握し、行政、社協、NPO等の継続した連携支援により被災者の自立した生活再建に向けたグループワークを行い、具体的な支援策や平時からの体制づくりについて考えます。

## 1 実施内容

- 被災者の生活再建に向けて、一人ひとりに寄り添い個別の被災状況・生活状況などを把握し、様々な支援を組み立てていく仕組みを、取組事例を踏まえながら学びます。
- 県内で地震が発生したという想定のもと、行政、社協、NPO等が連携しながら、被災者が抱える多様な課題の解消に向けた支援の手法等についてグループワークを通じて学びます。

## 2 参加対象者

行政職員（兵庫県・各市町の防災、福祉、ボランティア関係部局職員）、市区町社協職員、災害ボランティア活動支援関係団体連絡会議構成員、NPO、学識者 等

## 3 お問い合わせ先

ひょうごボランティアプラザ（兵庫県社会福祉協議会） 担当：高田・照田

〒650-0044 神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6階

TEL：(078) 360-8845 FAX：(078) 360-8848

## 4 プログラム ※プログラム内容は変更することがあります。

時間	内容
10:30~10:40	《開会》 オリエンテーション 等
10:40~ 12:00	【講義・対談】 「被災者の早期生活復旧に向けた連携支援～災害ケースマネジメントから考える～」 被災者の生活再建に向けて、一人ひとりに寄り添い個別の被災状況・生活状況などを把握し、様々な支援を組み立てていく仕組みを、取組事例を踏まえながら学びます。  登壇者： 津久井 進氏（弁護士、日本弁護士連合会災害復興支援委員会前委員長） 頼政 良太氏（被災地 NGO 協働センター代表、関西学院大学人間福祉学部助教）
12:00~13:00	《 休 憩 》
13:00~ 14:50	【グループワーク】 県内で地震災害が発生したという想定のもと、行政、社協、NPO 等が連携しながら、被災者が抱える多様な課題の解消に向けた支援の手法等についてグループワークを通じて学びます。  コーディネーター： 頼政 良太氏（被災地 NGO 協働センター代表、関西学院大学人間福祉学部助教）
15:00~ 16:30	【グループ発表・全体共有】及び【質疑応答・講評】
16:30	《閉会》

### 講師等プロフィール（五十音順）

#### 津久井 進氏

（弁護士（兵庫県弁護士会所属）、日本弁護士連合会災害復興支援委員会前委員長）

阪神・淡路大震災が起きた1995年に弁護士登録。近畿災害対策まちづくり支援機構の事務局長等を歴任。全国各地で起きる災害現場に駆けつけ被災者の生活再建支援や法制度の改善や立法運動に熱心に取り組む。主な著書に『災害ケースマネジメント◎ガイドブック』等がある。

#### 頼政 良太氏

（被災地NGO協働センター代表、関西学院大学人間福祉学部社会起業学科 助教）

2007年、大学入学と同時に中越・KOBÉ 足湯隊（事務局：被災地NGO協働センター）として災害ボランティア活動を始める。その後、中越沖地震、兵庫県佐用町水害、東日本大震災など、数多くの国内の災害救援活動に従事。現在、関西学院大学にて災害時の多様な支援や中長期的なボランティア活動などを研究。

主 催：兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランティアプラザ